

日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

(2018年3月〔復航〕速報値)

(公財) 日本海事センター 企画研究部

* 文中の%は、寄与度とシェア以外で特に記載がない場合は、対前年同期比を表します。

I. 復航（米国→アジア 18ヶ国・地域）の荷動き

- (1) 2018年3月の米国からアジア（18ヶ国・地域）へのコンテナ荷動き量は、前年比2ヶ月連続の増加となる2.9%増の64.1万TEUと過去最高を更新。1-3月の四半期別では前年同期比2期ぶりの減少となる0.9%減の174.5万TEU。
- (2) 国別で見ると、韓国（7.9%減）、中国（16.6%減）などが減少となったものの、日本（3.5%増）、台湾（18.8%増）、過去最高を更新したベトナム（66.7%増）、インド（58.2%増）などが増加。地域別では、ASEAN（35.5%増）、南アジア（50.1%増）ともに増加となり、過去最高を更新。
- (3) 品目別では「木材及びその製品」（寄与度2.4%増）、「採油用の種及び油脂」（同1.4%増）、「繊維及びその製品」（同1.3%増）などが増加に寄与。

国別・品目別の荷動きと寄与度

順位	国名	品目名	2017年3月	2018年3月	寄与度 (%)
1位	中国	木材及びその製品	37,323	50,434	2.2
2位	中国	紙、板紙類（古紙含む）	83,686	44,878	▲6.4
3位	インド	紙、板紙類（古紙含む）	10,240	22,947	2.1
4位	中国	家具及び家財道具	12,172	13,272	0.2
5位	日本	動物用飼料	10,586	10,443	0.0
6位	中国	繊維及びその製品	11,433	9,496	▲0.3
7位	中国	動物用飼料	14,112	9,488	▲0.8
8位	パキスタン	繊維及びその製品	5,672	9,289	0.6
9位	ベトナム	繊維及びその製品	7,237	9,270	0.3
10位	中国	レジン等の合成樹脂	11,034	7,921	▲0.5
11位	韓国	動物用飼料	9,735	7,484	▲0.4
12位	台湾	採油用の種及び油脂	1,962	7,075	0.8
13位	インドネシア	紙、板紙類（古紙含む）	1,702	6,714	0.8
14位	中国	金属スクラップ	11,269	6,545	▲0.8
15位	日本	肉及びその調整品	5,283	5,818	0.1

単位：TEU

- (4) 日本は3ヶ月ぶりの増加となる3.5%増の7.0万TEU。1位（2016年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様）の「動物用飼料」（1.4%減）が4ヶ月連続の減少となったものの、2位の「肉及びその調整品」（10.1%増）が2ヶ月ぶりの増加、4位の「野菜及び種苗類」（19.3%増）が2ヶ月連続の増加。

- (5) 最大の入荷国である中国は、12ヶ月連続の減少となる16.6%減の22.1万TEU。1位の「紙、板紙類及びその製品（古紙含む）」（46.4%減）が18ヶ月連続の減少、3位の「動物用飼料」（32.8%減）が25ヶ月連続の減少、5位の「金属スクラップ」（41.9%減）が12ヶ月連続の減少。紙・板紙（古紙を含む）、金属スクラップなどが環境規制の影響などにより減少傾向が続いている。香港は3ヶ月連続の減少となる25.7%減の2.0万TEU。
- (6) 韓国は2ヶ月ぶりの減少となる7.9%減の5.8万TEU。2位の「紙、板紙類及びその製品（古紙含む）」（10.7%増）が2ヶ月連続の増加となったものの、1位の「動物用飼料」（23.1%減）が3ヶ月連続の減少、4位の「果物類」（32.3%減）が8ヶ月ぶりの減少。
- (7) 台湾は4ヶ月連続の増加となる18.8%増の5.1万TEU。2位の「採油用の種及び油脂」（260.5%増）が4ヶ月連続で大幅な増加、3位の「金属スクラップ」（26.4%増）が3ヶ月連続で大幅な増加。
- (8) ASEAN はインドネシア（13.7%増）、タイ（44.4%増）、ベトナム（66.7%増）が過去最高を更新したことなどにより、全体では6ヶ月連続の増加となる35.5%増の14.4万TEU。ベトナムは、4ヶ月連続で50%を超える増加となる66.7%増の3.9万TEU。1位の「動物用飼料」が4ヶ月連続で大幅な増加。2位の「繊維及びその製品」（28.1%増）が3ヶ月連続の増加、3位の「木材及びその製品」（50.4%増）が2ヶ月連続の増加。
- (9) 南アジアはバングラデシュ（34.0%増）、パキスタン（30.9%増）、インド（58.2%）が過去最高を更新したことなどにより、全体では4ヶ月連続で30%を超える増加となる50.1%増の7.6万TEU。インドは4ヶ月連続で40%を超える増加となる58.2%増の5.4万TEU。1位の「紙、板紙類及びその製品（古紙含む）」（124.1%増）が6ヶ月連続で50%を超える増加。2位の「繊維及びその製品」（13.7%増）が8ヶ月ぶりの増加、3位の「家具及び家財道具」（34.3%増）が2ヶ月ぶりの増加。
- (10) 船社別（2018年1-3月累計（暫定値）の船社別順位、以下同様）
- 1位のCMA-CGM + APL/NOLが2ヶ月連続の増加となる9.5%増の10.0万TEU（1-3月のシェア：15.10%）。
 - 2位のMSCが6ヶ月連続の増加となる13.6%の6.8万TEU（同：10.75%）。
 - 3位のEVERGREENが2ヶ月連続の増加となる3.9%増の6.6万TEU（同：10.50%）。
 - 4位のMAERSKも2ヶ月連続の増加となる3.7%増の6.6万TEU（同10.07%）。
 - 5位のOOCLも2ヶ月連続の増加となる51.2%増の5.3万TEU（同：8.20%）。
- 一方、邦船社ではNYKが2ヶ月連続の減少となる9.9%減の3.6万TEU（1-3月のシェア：5.73%）、MOLが3ヶ月連続の減少となる3.1%減の3.2万TEU（同5.43%）。K LINEも3ヶ月連続の減少となる2.3%減の2.9万TEU（同4.78%）。ちなみに邦船3社の1-3月のシェアは15.94%。
- (11) 3月のインバランス（往航を100とした場合の復航の比率）は、前月比11.2ポイント改善の53.4%。インバランスを国・地域別に捉えると日本114.2%、韓国79.4%、台湾110.4%、ASEAN72.5%、南アジア90.0%など。インバランスに最も影響を与える中国+香港は32.8%。

表-1 2018年3月:揚国・地域別荷動き

国・地域	復航				
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	1-3月の 累計(TEU)	前年同期比 (%)
18ヶ国・地域 合計	641,295	2.9	100.0	1,744,614	▲0.9
日本	70,127	3.5	10.9	191,639	0.3
韓国	58,420	▲7.9	9.1	164,621	▲0.7
台湾	51,336	18.8	8.0	143,513	11.2
中国+香港 計	240,873	▲17.4	37.6	669,192	▲20.0
中国	221,314	▲16.6	34.5	617,526	▲19.0
香港	19,560	▲25.7	3.1	51,666	▲30.6
マカオ	29	▲23.3	0.0	152	▲5.4
ASEAN 計	144,040	35.5	22.5	378,488	25.8
シンガポール	13,341	19.7	2.1	34,586	10.7
フィリピン	11,591	5.0	1.8	31,850	5.4
マレーシア	17,436	56.9	2.7	41,260	38.8
インドネシア	33,707	13.7	5.3	90,014	8.5
タイ	24,616	44.4	3.8	63,426	20.5
ベトナム	39,257	66.7	6.1	105,904	67.1
カンボジア	2,618	17.6	0.4	6,910	▲9.9
ミャンマー	1,473	165.1	0.2	4,537	47.2
南アジア 計	76,471	50.1	11.9	197,009	44.5
スリランカ	1,987	64.4	0.3	5,280	36.0
バングラデシュ	5,293	34.0	0.8	11,849	23.3
パキスタン	15,570	30.9	2.4	38,871	12.4
インド	53,621	58.2	8.4	141,009	59.8

(注) 集計対象は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEANのうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの8ヶ国、南アジアではインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの4ヶ国、合計18ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、翌月以降に若干の修正が加わる場合がある。

II. 復航の品目別荷動き

- (1) 復航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している「紙、板紙類及びその製品（古紙含む）」は16ヶ月連続の減少となる14.6%減の9.5万TEU。
- (2) 「木材及びその製品」は2ヶ月連続で20%を超える増加となる29.3%増の6.3万TEU。
- (3) 「繊維及びその製品」は2ヶ月ぶりの増加となる18.6%増の4.9万TEU。
- (4) 「動物用飼料」は3ヶ月連続の減少となる9.6%減の4.3万TEU。
- (5) 「家具及び家財道具」は3ヶ月ぶりの増加となる3.0%増の2.8万TEU。

「紙、板紙類及びその製品（古紙を含む）」の荷動き量は2016年ベースで134.9万TEUと全品目の19.8%を占める。なかでも中国揚の同品目は約100.5万TEUと74.5%を占める。しかしながら、同国の環境規制により輸入制限が発動される以前の2016年10月から減少基調が顕著である。

2017年の「紙、板紙類及びその製品（古紙を含む）」の荷動き量は前年比20.6%減の79.8万TEUと2016年比で20.7万TEU減少。また、シェアでも2016年のシェアの74.5%から67.6%と6.9ポイント低下。

中国では紙・板紙（古紙を含む）の輸入減を国内の古紙回収増加とパルプでの紙の生産などでまかなっている。一方、米国からの「紙、板紙類及びその製品（古紙を含む）」はベトナムなどの東南アジア地域やインドなどの南アジア地域にシフトしている。

(参照：主要国の紙・板紙（古紙含む）の荷動きの推移)

表-2 復航:2018年3月の品目別荷動き(上位10品目)

品目名	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	1-3月 前年同期比(%)	シェア (%)
1. 紙、板紙類及びその製品 (古紙含む)	94,525	▲14.6	▲2.7	▲13.0	14.7
2. 木材及びその製品	62,744	29.3	2.4	13.5	9.8
3. 繊維及びその製品	49,354	18.6	1.3	6.6	7.7
4. 動物用飼料	42,844	▲9.6	▲0.8	▲6.1	6.7
5. 家具及び家財道具	28,408	3.0	0.1	▲7.4	4.4
6. 採油用の種及び油脂	23,683	58.6	1.4	23.0	3.7
7. 肉及びその調整品	21,326	11.3	0.4	6.2	3.3
8. 金属スクラップ	20,210	0.1	0.0	5.6	3.2
9. レジン等の合成樹脂	18,609	▲9.9	▲0.3	▲21.9	2.9
10. 果物類	17,321	▲13.5	▲0.4	1.6	2.7

Ⅲ. 船社別荷動き動向（シェア：％）

順位	復航船社名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年1-3月	最近の推移など
1	CMA-CGM + APL/NOL	13.19	14.16	13.05	15.02	15.10	2ヶ月連続の増加
	(CMA-CGM)	6.01	7.70	7.72	8.93	8.86	
	(APL/NOL)	7.18	6.46	5.34	6.47	6.25	
2	MSC	8.76	8.61	9.48	9.74	10.75	6ヶ月連続の増加
3	EVERGREEN	9.31	9.55	9.60	10.15	10.50	2ヶ月連続の増加
4	MAERSK	9.89	8.41	11.30	10.24	10.07	2ヶ月連続の増加
5	OOCL	5.85	6.28	7.01	6.83	8.20	2ヶ月連続の増加
6	COSCON	9.14	7.29	6.67	7.43	8.19	2ヶ月連続の増加
	(COSCO)	5.49	4.32	5.81	7.43	8.19	
	(CHINA SHIPPING)	3.65	2.97	0.86	0.00	0.00	
7	NYK	5.70	6.78	6.55	6.63	5.73	2ヶ月連続の減少
8	HYUNDAI	5.66	5.18	4.96	6.39	5.45	3ヶ月連続の減少
9	MOL	4.66	5.10	5.54	6.11	5.43	3ヶ月連続の減少
10	HAPAG-LLOYD	4.48	5.10	4.83	4.51	5.31	3ヶ月ぶりの増加
11	YANG MING	5.49	5.02	5.48	5.72	4.92	7ヶ月連続の減少
12	KLINE	5.63	5.76	5.69	5.33	4.78	3ヶ月連続の減少
	OTHERS	12.23	12.76	9.84	5.89	5.57	3ヶ月連続の減少
	TOTAL	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	

* 2014-2016年のCOSCONの数値はCOSCOとCHINA SHIPPINGとの合計値(シェア)

* 2014-2017年のCMA-CGM + APL/NOLの数値は両社の合計値(シェア)

* 単位は％。順位は2018年1-3月の累計を基準としたもの。2017、2018年は暫定値。

Ⅳ. コンテナ運賃の動向

(2)WESTBOUND		(Drewry:Container Freight Rate Insight)											2018年4月			
積地	向け地		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
Los Angeles (U.S.A)	Shanghai (China)	2017年	20ft	600	600	640	650	670	640	620	640	630	630	640	660	
		40ft	760	750	780	780	780	760	740	750	750	750	750	770	770	
		2018年	20ft	640	640	630										
		40ft	770	770	740											
		前年比	20ft	6.7%	6.7%	-1.6%										
		40ft	1.3%	2.7%	-5.1%											
New York (U.S.A)	Shanghai (China)	2017年	20ft	960	970	940	960	960	930	910	920	900	900	910	910	
		40ft	1,180	1,200	1,170	1,180	1,160	1,120	1,090	1,110	1,080	1,080	1,090	1,090		
		2018年	20ft	910	910	880										
		40ft	1,100	1,100	1,070											
		前年比	20ft	-5.2%	-6.2%	-6.4%										
		40ft	-6.8%	-8.3%	-8.5%											
Los Angeles (U.S.A)	Yokohama (Japan)	2017年	20ft	820	820	800	850	850	870	860	810	830	810	850	860	
		40ft	1,050	1,050	1,020	1,090	1,090	1,100	1,090	1,040	1,040	1,020	1,060	1,060		
		2018年	20ft	870	880	880										
		40ft	1,080	1,090	1,090											
		前年比	20ft	6.1%	7.3%	10.0%										
		40ft	2.9%	3.8%	6.9%											
New York (U.S.A)	Yokohama (Japan)	2017年	20ft	1,150	1,210	1,160	1,240	1,240	1,250	1,240	1,150	1,150	1,140	1,190	1,200	
		40ft	1,430	1,510	1,470	1,570	1,570	1,590	1,580	1,460	1,460	1,440	1,440	1,450		
		2018年	20ft	1,250	1,250	1,260										
		40ft	1,480	1,480	1,490											
		前年比	20ft	8.7%	3.3%	8.6%										
		40ft	3.5%	-2.0%	1.4%											

V. 米国内地域別（西岸／東岸／ガルフ）荷動きの構成比の推移

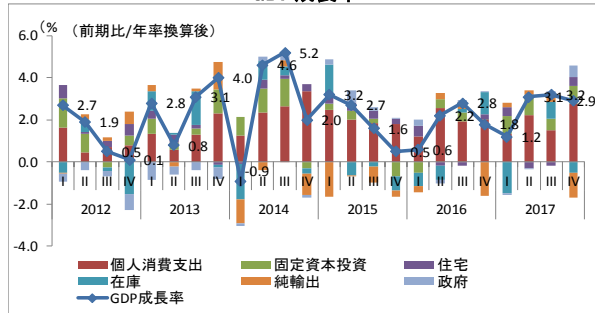
米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2016年6月	64.9	31.9	3.2	58.9	36.6	4.5
7月	64.0	32.6	3.4	61.2	34.4	4.4
8月	63.8	32.9	3.3	60.1	35.5	4.4
9月	64.0	32.5	3.5	60.3	35.1	4.6
10月	63.6	32.6	3.8	60.9	34.5	4.5
11月	65.2	31.2	3.6	60.4	35.0	4.5
12月	64.7	31.8	3.5	58.8	35.6	5.6
2017年1月	63.5	33.0	3.5	52.3	41.0	6.6
2月	59.1	37.0	4.0	57.2	36.8	6.0
3月	64.7	31.5	3.8	59.4	34.7	5.9
4月	63.8	32.7	3.5	56.9	38.1	4.9
5月	64.8	32.0	3.2	57.6	37.8	4.6
6月	62.9	33.1	4.1	57.2	37.9	4.9
7月	63.3	32.6	4.1	56.3	38.4	5.3
8月	64.4	32.2	3.3	58.6	36.4	5.0
9月	60.4	34.8	4.9	58.3	36.6	5.1
10月	59.8	35.7	4.5	55.6	39.2	5.2
11月	65.7	30.2	4.1	57.5	37.7	4.8
12月	62.6	33.6	3.9	56.0	38.3	5.7
2018年1月	62.7	33.5	3.8	56.0	38.9	5.1
2月	62.3	33.7	4.0	56.5	37.9	5.6
3月	55.5	39.5	5.0	56.0	38.7	5.3

(参考) 荷動きに関連する米国の経済指標・動向

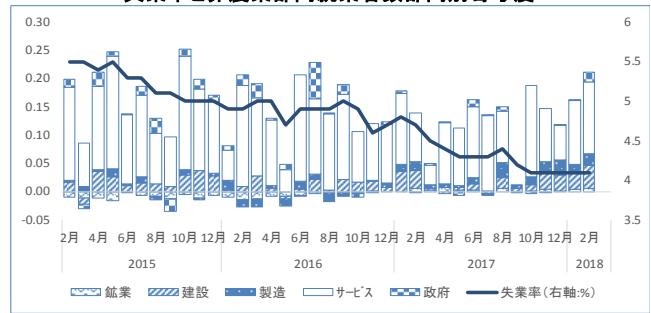
2018年4月作成 米国経済:回復基調を維持

- ◆2017年第4四半期のGDP成長率(年率換算,確報値)は、2.9%増に上方修正。個人消費、在庫投資が上方修正。
- ◆2月の失業率は4.1%で5ヶ月連続で横ばい。非農業部門全体は31.3万人増。2017年後半以降建設、製造部門の雇用も伸びている。
- ◆鉱工業生産指数及び設備稼働率は2016年3月を底に回復基調に転じ、2018年も回復基調を維持。
- ◆ガソリン価格及び先行指標であるWTI価格は2014年8月以降急落していたが、2016年3月を底に上昇基調を示す。
- ◆2018年の住宅着工件数、および住宅販売は上昇基調を示す。
- ◆18年小売売上高は、個人消費を中心に伸びている。
- ◆2014年10月開催の連邦公開市場委員会(FOMC)定例会で量的緩和(QE3)終了に。15年12月以降段階的に利上げを実施。17年12月のFOMCで半年ぶりの利上げを決定。次回FOMCは5月1-2日。

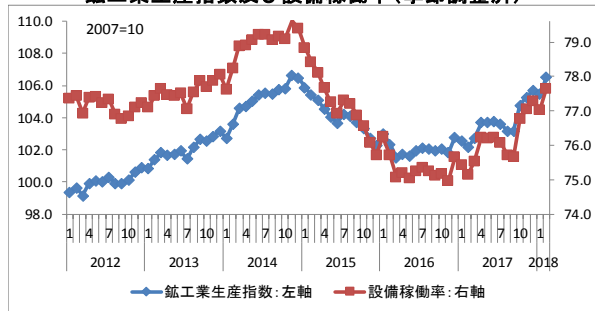
GDP成長率



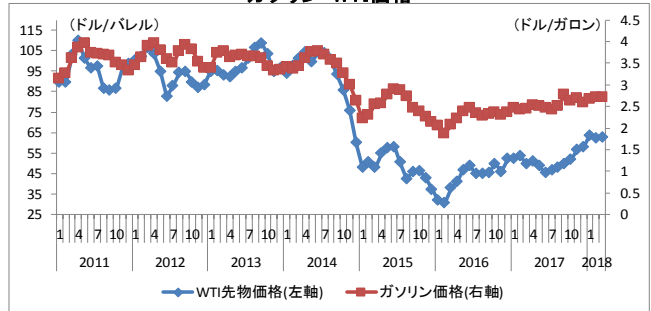
失業率と非農業部門就業者数部門別寄与度



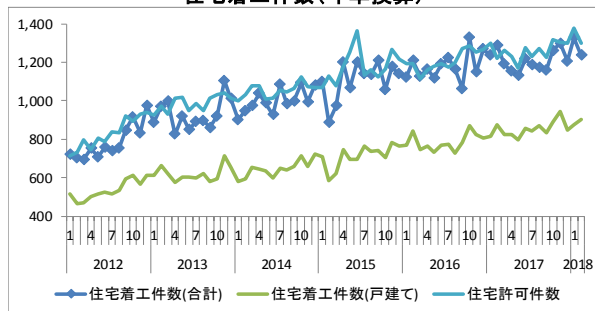
鉱工業生産指数及び設備稼働率(季節調整済)



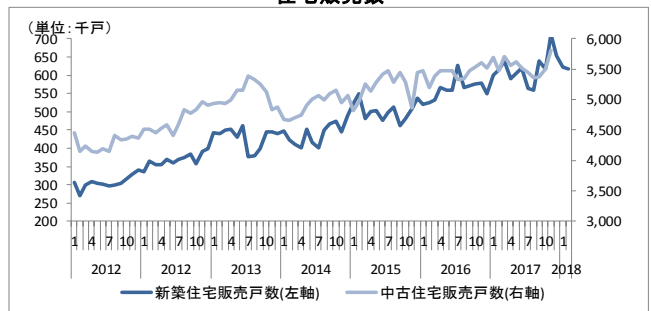
ガソリン・WTI価格



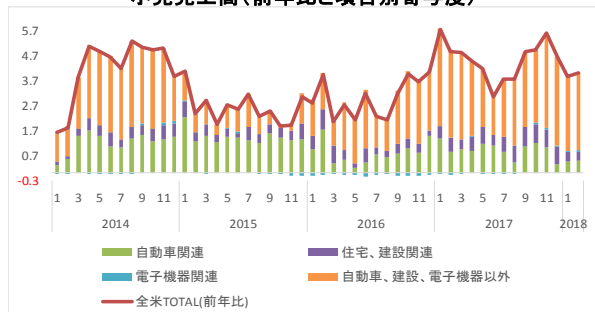
住宅着工件数(年率換算)



住宅販売数



小売売上高(前年比と項目別寄与度)



自動車販売台数

